

僕には愛がない／僕は権力を持たぬ／白い襯衣の中の個だ

(村野四郎『體操』『體操詩集』)

宮崎 真素美 (日本文化学部国語国文学科)

## 祝祭と崩壊 — 紀元 2600 年の作用と反作用

### ■祝祭

紀元 2600 年 (1940 年 / 昭和 15 年)

神武天皇の即位から 2600 年を迎えるという位置づけで、国による祝祭式典をはじめ、関連行事が全国各地で挙行された。1931 年 (昭和 6 年) の満州事変に端を発し、1937 年 (昭和 12 年) には日中戦争を開始した日本の足取りは、1941 年 (昭和 16 年) の日米開戦へと向かう。満州事変から 1945 年 (昭和 20 年) の太平洋戦争敗戦にいたる 15 年間に於いて、1940 年 (昭和 15 年) は、国威発揚の極点を形成した。

### 幻のオリンピック

第 12 回オリンピック東京大会が招致されていたものの、日中戦争を開始した日本に国外からは非難が集中、国内では軍部からの反対が強く、ついに返上の憂き目を見た。前回の 1936 年 (昭和 11 年) 開催ベルリンオリンピックが、ナチスドイツによる国威高揚を前面にした影響を受け、同様の路線で進みつつあったのが、東京大会であった。

### ■崩壊

当時 20 歳前後の若き詩人たちの作品には、何ものかへの怯えの予感や警鐘、自己の内景としての「室内」の創出とその崩壊、満身創痍での疾駆のさまや不眠の描出が見られる。

形相  
鮎川信夫

髪は散る  
椅子はみづから倒れはじめる  
日没には  
器物の底もひびわられて  
水の音も  
じぶんの声も聞えない  
吸殻や  
とんでくる抽斗などを  
たゆみながら一つの扉が支えてある  
窓のそとを  
白い雨がとほつてゆく  
街は傷口を舐めてある獣のやうに  
濡れた新聞紙の上に蹲まる  
すべての車両は動かない  
すべての劇場は閉ざされてある  
夜ふけてただひとり  
壁の下でマツチをする男のために  
アヘロンの岸にさまよふ亡霊のごとく  
秘密はいくつもの廊下をとほつてくる  
風はおちて  
あたりが軋りはじめ  
塙は塙の中から滑りける  
光りは  
東方からおまへのからだを侵しはじめる  
盲ひたもののために  
美しいあなたの皮膚や  
輝くチーズを載せた車がとほる  
あの窓もとざして  
室内には  
眠りとひきつった雰囲気とが  
灰のなかの世界のやうに  
なだれてくる光に照らされてしまった

『新領土』昭 15・9

### ■『體操詩集』

上記若き詩人たちより 20 歳年長の村野四郎は、ベルリンオリンピックの画像と詩篇とを組み合わせ、1939 年 (昭和 14 年) に出版した『體操詩集』において、「在来の憂悶詩に対抗」する世界をあらわした。自我を超越する即物的表現は、「祝祭」と「崩壊」の作用と反作用とは別次元の様相を呈している。



體操  
僕には愛がない  
僕は権力を持たぬ  
白い襯衣の中の個だ  
僕は解体し、構成する  
地平線が来て僕に交わる  
僕は周囲を無視する  
しかも外界は整列するのだ  
僕の咽喉は笛だ  
僕の命令は音だ  
僕は柔らかな掌をひるがへし  
深呼吸する  
このとき  
僕の形へ挿される一輪の薔薇

村野四郎

